

<福島県納税貯蓄組合連合会会長賞>

チャンスをつくる

石川義塾中学校

2年 菊地 未袖

「衣装代はかかりません。交通費も負担します。レッスン費もかかりません」

稽古の休憩時間にスタッフさんが発した言葉に、私はとても驚きました。私の周りの共演者も、驚きを隠せないような表情をしていました。

私は、県が主催する、中高生とプロの演出家、音楽家の皆さんによる創作舞台「タイムライン」に参加していました。3年間続いてきたこの企画は、今年で最後の公演になりました。そのため、今まで以上に何をとっても気合が入っていました。ある日、共演者と話している中で、ある話が出てきました。

「衣装代とか公演のためのホテル代とか、レッスン費みたいなものって、私たちが払わないといけないんだよね・・・」

『考えてなかったけど、確かにな・・・』と、私も思いました。後日、衣装を担当してくださっているプロのファッションデザイナーの方の洋服を調べてみると、やはり、ブランドを立ち上げているだけあって一着数十万円するものが多かったのです。私も両親もとても不安になりました。「やっぱり辞めよう」という話も出てきました。

そんな時にスタッフさんが私たちに声をかけてくれたのです。「嘘でしょ！」とも思いましたが、それと同時に「みんなと舞台に出れる！」という幸福感に包まれました。両親もその話を聞いてほっとしていました。そして、私にこう言ったのです。

「あなた達出演者はたくさんの方の苦勞のおかげで舞台に立てている。その事

に感謝して、思う存分楽しんで来なさい！」

この言葉を聞き、さらに気合いが入った私たちは、3か月間稽古に励み、ついに地元での公演と東京での公演、全6公演を大盛況で成し遂げました。

公演が終わった今考えてみると、たくさんの人が納めている『税金』も、両親の言っていた『たくさんの人の苦労』だったのだなと思います。

『税金』は、私たちにチャンスを与えてくれるものです。ですが、そのチャンスを生かすも殺すも私たち次第です。だから、チャンスを生かそうと一生懸命頑張っている人たちの前で、日本国民のトップに立つような人たちが、税金を悪用して喜んでいるようではダメなのです。

私は、『税金を使わせてもらっている』というプレッシャーを時々感じます。ですが今は精一杯、たくさんの方にチャレンジしたいです。

そしていつか、大人になって今まで以上に税金を納めるようになったら、今度はチャンスを与える側として、若い人たちを引っ張って行きたいと思います。